

## 総会前研修会—見沼たんぼの「田圃と斜面林と公園」

2017年総会の総会前研修会が3月4日(土)の午後、「見沼たんぼ」の北西部地区において、NPO 法人自然観察さいたまフレンドのガイドにより東部鉄道アーバンパークライン大宮公園駅集合により開催しました。参加者は17名であり三班編成で出発しました。風はやや冷たいが良く晴れた天候でした。

コースは大宮公園駅—鉄道踏切(駅南)—盆栽陸橋(産業道路)—鉄道踏切(寿能町)—見沼代用水西縁(御岳橋)—見沼1丁目—芝川(石橋)—大宮体育館(WC)—大和田緑地公園特別緑地保全地区—長屋門・屋敷林—大宮第二公園(WC)—大宮公園—氷川神社(氷川参道・三の鳥居入口)でした。この地区はさいたま市の大宮区・北区・見沼区の境が接近しているので大宮区から3区を通過し再び大宮区に戻るコースです。順を追って地域の状況を説明します。まず、大宮公園駅の南側の踏切を渡り北区盆栽町の西側道路に出ます。盆栽町地区は、関東大震災の際、大被害を受けた東京小石川周辺の盆栽業者が当時通称「源太郎山」と呼ばれたこの地に移住した地区です。盆栽村の誕生は大正14年といわれ、昭和3年には盆栽村組合が結成され住民協定(ブロック塀は作らず、家の囲いは全て生垣にすること、など)が締結しました。昭和4年の総武鉄道開業で大宮公園駅至近となり、当村と周辺を合わせて30軒もの盆栽園が開かれました。現在の盆栽園は5軒ですが共にさいたま市の伝統産業事業者の指定を受けています。

垣根などのウメ・ツバキ・ギンヨウアカシアなどの花、路面の端にホトケノザ・コハコベ・オオイヌノフグリナズナ・スズメノカタビラ・ナズナなどの花を見ながら先に進み、やがて産業道路に架かる盆栽陸橋を抜けて、大宮区寿能町に出ると、道路沿いの北側の農家の屋敷の前の木々が取り払われており、さらに鉄道踏切を渡ると線路沿いの御嶽社が何処かに移転されたのだろうか、無くなり周囲の立木も南側のドウダンツツジを除いて切り払われています。御嶽社は甲斐武田氏の家臣がこの地に移住した際に建立した社という事を考えると寂しくなります。線路の北側の畑が既に住宅地に変貌していることでもあり、土地利用が急速に変わる時代の流れなのかもしれません。三面護岸された見沼代用水西縁に出ます。農閑期としてはかなり豊富な水量ですが、飲料水として用途があるからです。橋を渡ると北区見沼1丁目の田圃が一望できますが、早春期であり、みどりの無い部分も多い。近く土手にはフキノトウが多く生え、畑の縁などにはオオイヌノフグリ・ホトケノザの群落があり遠くからでも気付くように花を咲かせています。水田が残り、絶滅危惧種のイヌスギナ・イチョウキゴケ(植物)、トウキョウダルマガエル(動物)が生息している処です。春の七草もスズナ以外は通常見付かります。

空高に飛ぶヒバリの声も聞こえました。芝川の石橋の上流左岸にはヒドリガモの10羽程度の群れが寛いでいます。旧16号線の境橋付近ではカルガモ・オオバンが泳いでいましたが水鳥はその程度でした。

次に、大和田緑地公園特別緑地保全地区ですが、大宮台地大和田支台西縁ある斜面林を主体とした自然型の緑地で、雑木林の再生事業・絶滅危惧種など希少植物の保護・谷地再生による湿生植物・水生動物の保全などの活動を行い、また、この場を環境教育体験学習としても活用しています。それらを支える活動主体はさいたましみどり愛護会(事務局さいたま市)大和田支部になります。公園南側の長屋門とそれを取り巻く南側の台風対応で樹形が整えられたシラカシの防風樹、北側の防風林を見学しました。

大宮第二公園の管理棟でトイレ休憩の後、ヤマモモの並木道を抜け大宮公園に向かいますが、日当たりの良いタブノキには蕾が成長しており、風当たりの少ない場所のカラスノエンドウには花が有りました。又、大宮公園の日本庭園傍の池にはヒレナガニシキゴイが優雅に泳いでいました。16時30分前には第三鳥居入口近くの氷川参道で解散となりました。